



* 2019年7月改訂(第2版)
2013年12月作成

日本標準商品分類番号
87259

貯 法：室温保存、遮光保存、気密容器
使用期限：外箱に表示の使用期限内に使用すること。
注 意：「取扱い上の注意」の項参照

承認番号	22500AMX01159
薬価収載	薬価基準収載
販売開始	2013年12月

尿失禁・尿意切迫感・頻尿治療剤

オキシブチニン塩酸塩錠 2mg[YD]

OXYBUTYNIN HYDROCHLORIDE

オキシブチニン塩酸塩錠

- * **【禁忌】**(次の患者には投与しないこと)
- (1) 明らかな下部尿路閉塞症状である排尿困難・尿閉等を有する患者
[排尿困難・尿閉等が更に悪化するおそれがある。]
 - (2) 閉塞隅角緑内障の患者
[抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。]
 - (3) 重篤な心疾患のある患者
[抗コリン作用により頻脈、心悸亢進を起し心臓の仕事量が増加するおそれがある。]
 - (4) 麻痺性イレウスのある患者
[抗コリン作用により胃腸管の緊張、運動性は抑制され、胃腸管内容物の移動は遅延するため、麻痺性イレウスの患者では、胃腸管内容物の停滞により閉塞状態が強められるおそれがある。]
 - (5) 衰弱患者又は高齢者の腸アトニー、重症筋無力症の患者
[抗コリン作用により、症状を悪化させるおそれがある。]
 - (6) 授乳婦(「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照)
 - (7) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

- (3) うっ血性心不全の患者
[代償性交感神経系の亢進を更に亢進させるおそれがある。]
- (4) 不整脈のある患者
[頻脈性の不整脈を有している患者では、副交感神経遮断作用により交感神経が優位にたち、心拍数の増加等が起こるおそれがある。]
- (5) 潰瘍性大腸炎の患者
[中毒性巨大結腸があらわれるおそれがある。]
- (6) 高温環境にある患者
[抗コリン作用により発汗抑制が起こり、外部の温度上昇に対する不耐性が生じて、急激に体温が上昇するおそれがある。]
- (7) 重篤な肝又は腎疾患のある患者
- (8) パーキンソン症候群又は認知症・認知機能障害のある高齢者
[抗コリン作用により、症状を悪化させるおそれがある。]
- (9) 開放隅角緑内障の患者
[抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。]

【組成・性状】

1. 組成

1錠中、オキシブチニン塩酸塩 2mg を含有する。
添加物として、乳糖水和物、セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ステアリン酸Mgを含有する。

2. 性状

白色の片面割線入り素錠である。

	外形			直径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (mg)	識別コード (PTP)
	表	裏	側面				
オキシブチニン塩酸塩錠 2mg[YD]				約8	約2.7	180	YD053

【効能・効果】

下記疾患又は状態における頻尿、尿意切迫感、尿失禁神経因性膀胱
不安定膀胱(無抑制収縮を伴う過緊張性膀胱状態)

【用法・用量】

通常成人 1回 1錠(2又は3mg)を 1日 3回経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

- * 1. **慎重投与**(次の患者には慎重に投与すること)
- (1) 排尿困難のおそれのある前立腺肥大患者
[前立腺肥大患者では、排尿障害を来していない場合でも、抗コリン剤の投与により排尿障害を起こすおそれがある。]
 - (2) 甲状腺機能亢進症の患者
[心拍数の増加等の症状の悪化を招くおそれがある。]

2. 重要な基本的注意

視調節障害、眠気を起こすことがあるので、本剤投与中の患者には、自動車の運転等危険を伴う機械の操作に注意させること。

3. 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
抗コリン剤 三環系抗うつ剤 フェノチアジン系薬剤 モノアミン酸化酵素阻害剤	口渇、便秘、排尿困難、目のかすみ等の副作用が増強されるおそれがある。	抗コリン作用が増強されるおそれがある。

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用

1) 血小板減少(頻度不明)

血小板減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

2) 麻痺性イレウス(頻度不明)

麻痺性イレウスがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、著しい便秘、腹部膨満等があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3) 尿閉(頻度不明)

尿閉があらわれることがあるので、観察を十分に行い、症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	頻度不明
精神神経系	めまい、眠気、頭痛、しびれ、振戦等、認知機能障害、抑うつ
循環器	頻脈

	頻度不明
消化器系	口渇、下痢、胃腸障害、胃部不快感、嘔気、食欲不振、胸やけ、便秘、腹部膨満感、口内炎、嘔吐、舌炎等、嚥下障害
過敏症	発疹等、血管浮腫、蕁麻疹
泌尿器系	排尿困難、残尿等
肝臓	AST(GOT)、ALT(GPT)の上昇
その他	浮腫、倦怠感、口が苦い、発熱、熱感、目のかすみ、眼瞼結膜充血、汗が出なくなる、咽頭痛、胸痛、皮膚乾燥、嗚声等、眼乾燥、潮紅

5. 高齢者への投与

高齢者に投与する場合には少量から投与し、観察を十分行うとともに、過量投与にならぬよう注意すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。

動物実験で乳汁への移行が報告されているので授乳中の婦人には投与しないこと。

7. 小児等への投与

小児に対する安全性は確立していない。

8. 適用上の注意

薬剤交付時

PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている)

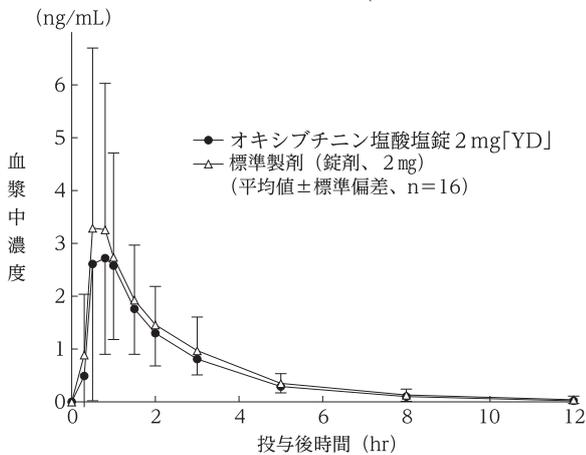
【薬物動態】

1. 生物学的同等性試験

オキシブチニン塩酸塩錠 2 mg「YD」と標準製剤をクロスオーバー法によりそれぞれ 2 錠(オキシブチニン塩酸塩として 4 mg)、健康成人男子 16 名に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定した。得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。¹⁾

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC ₀₋₁₂ (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)
オキシブチニン塩酸塩錠 2 mg「YD」	6.60±3.24	3.47±2.09	0.8±0.3	1.6±0.3
標準製剤 (錠剤、2 mg)	7.80±4.59	4.06±3.07	0.8±0.4	1.7±0.4

(平均値±標準偏差、n=16)



血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

2. 溶出挙動

オキシブチニン塩酸塩錠 2 mg「YD」は、日本薬局方外医薬品規格第3部に定められた塩酸オキシブチニン錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：オキシブチニン塩酸塩

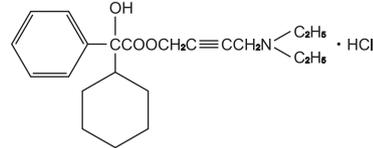
(Oxybutynin Hydrochloride)

化学名：4-Diethylamino-2-butynyl (±)-α-cyclohexyl-α-phenylglycolate hydrochloride

分子式：C₂₂H₃₁NO₃・HCl

分子量：393.95

構造式：



性状：白色の結晶性の粉末である。

メタノールに極めて溶けやすく、水、エタノール(95)又は酢酸(100)に溶けやすく、無水酢酸にやや溶けやすく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

水溶液(1→50)は旋光性を示さない。

【取扱い上の注意】

1. 保管方法

光、湿気を避けて保存して下さい。

2. 安定性試験

最終包装製品を用いた長期保存試験の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、オキシブチニン塩酸塩錠 2 mg「YD」は通常の市場流通下において3年間安定であることが確認された。²⁾

【包装】

オキシブチニン塩酸塩錠 2 mg「YD」

PTP：100錠(10錠×10)

【主要文献】

- 1) (株)陽進堂社内資料：生物学的同等性試験
- 2) (株)陽進堂社内資料：安定性試験

【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

日本ジェネリック株式会社 お客様相談室
 〒100-6739 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
 TEL 0120-893-170 FAX 0120-893-172

販売元



日本ジェネリック株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

製造販売元



株式会社 陽進堂

富山県富山市婦中町萩島3697番地8号

540759000-002